

令和2年9月15日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

市長定例記者会見を開催いたします。本日の話題は1件です。市長、よろしく願いいたします。

◆市長

はい、分かりました。少し涼しい風が入ってくるようになりましたけども、季節の変わり目ですので、健康には留意をしてください。そして、今日の話題は、まさにアフターコロナの時代を見据えた取り組みですね。全国的にもユニークな、建設局と都市局の局間連携で、社会実験してみようという取り組みです。

今だからこそ「新しいまちづくりで賑わいの創出を。ストリートを憩いの場にチェンジ」と、広報課が名を付けてくれました。目下目下、準備を進めておりますけれども、来年度の当初予算編成も始まっている中、その大きな方針が新しい日常、あるいは新しい生活様式に対応した静岡市の実現、ここに置いておりますので、本日の話題はその先駆けになるものだと、ご理解をいただきたいと思います。ところで、コロナの件ですが、今日9月15日現在、おかげさまで市内での新型コロナウイルスの新たな感染者は、14日連続で発生しておりません。これも市民の皆さん一人ひとり、あるいは事業者の皆さんの日頃の対策のおかげで、いわゆる感染拡大防止、命のLifeが守られていることを、改めてお礼を申し上げます。

そして、もう一方の暮らしのLife、社会経済活動のほうですが、このくらしのLifeを取り戻すという視点でまちなかを見渡してみると、まだまだ飲食店をはじめ事業者の皆さんが厳しい思いをされている感じが感じられます。この二つのLifeの両立の難しさ、かじ取りの難しさを痛感するとともに、なかなかこの既存の枠組みではやれることの限界も感じています。ですので、そういう意味で今日はその規制の緩和をする中で、やっといこうと、まちの賑わいを生み出していこうという取り組みであります。

もとより江川町の交差点を平面横断化したり、静岡市はコロナ禍の以前から、「歩いて楽しいまちの実現」、あるいは5大構想の一つとして、まち全体が劇場のような「まちは劇場」、こういうワクワク・ドキドキした取り組み、大道芸のワールドカップが年がら年中、静岡のまちなかで繰り広げられるような、そんな雰囲気のみちづくりを目指してきたことはご承知のとおりであります。国の方も近年、道路は車優先という考え方の転換をして、歩きたくなる、居心地がいい街路作り、国交省の言葉を借りれば、ウォーカブルですね、ウォーカブル、歩きやすいストリートデザインの必要性を、人中心で打ち出しています。「車中心から人中心」に変わってきているということでもあります。

そして、それをコロナ禍が、いわば後押しをしているように私には感じられています。三密回避が求められている今だからこそ、立ち止まって、歩いて、居心地よく過ごせる場所

を作っていくということでもあります。6月にPULCLE、レンタル自転車の事業を官民連携で開始しましたが、非常に順調に事業が推移しています。それも一つ、コロナ禍というのが追い風になっているのかなど。自転車という三密回避の交通手段、環境にも健康にもいいということで、PULCLEが使われているということも、その証左だと思いますし、また高齢化社会でありますので、お年寄りがまち歩きを楽しむとき、ちょっと腰掛けるところがあるというのは、すごく大事な要素であります。そのように歩きたくなるようなストリートをデザインしていくというのが、今回、建設局・都市局が考えた一つの第一歩であります。賑わいの創出につながる第一歩であります。国の規制緩和を活用して、道路・公園などの公共空間を、事業者の皆さんや市民の皆さんに開放していくということで、新しいアフターコロナの時代に対応したまちづくりを、加速していきたいというふうに考えています。

そこで、モニターをご覧ください。これはフランスのアヴィニョンと、アメリカのサンフランシスコでありますけれども、このように道路空間を活かしながら、街中、あちこちに人が集まって、そして、お茶を飲んだり食事をしたり談笑したり、そんな賑わいが生まれていく、成熟した都市の姿だと思いますが、私は世界に輝く静岡市の実現、世界水準のまちづくりということで、こういう人中心の公共空間、道路空間の使い方ということを大事にする、そんなまちを目指しております。

これもご承知のことではありますけれども、先日これも官民連携で、草薙駅前の商店街で、このような形でどうですかと、アヴィニョンとサンフランシスコと比べて、第一歩ではありますけれども、この草薙の駅前の商店街で、歩道を活用する取り組みがスタートいたしました。店先の歩道の空間にテーブルや椅子を設置することで、賑わいが生まれてきています。密にならない、屋外空間のニーズが高まっているという状況を踏まえ、この草薙駅の取り組みを一つ検証して、できれば私は北街道でも、この取り組みをチャレンジしていきたいというふうに思っています。北街道の商店街ですね。

さらに市として道路上に設備を設えることによって、賑わいの場を創出することにも取り組んでいきたいと思っております。それは、ここにマップをお見せしておりますけれども、まずは静岡駅の北口から駿府町公園周辺のエリア、つまり歴史文化拠点に誘っていき、その公共空間、道路上にさまざまな賑わいを創出していきたいというふうに考えております。その第1弾として本日アピールしたいのが、呉服町通りと七間町通りに、いわゆる「パークレット」、パークレットを設置して、まちなかに憩いの空間を作り出すというトライアルであります。なじみのない言葉だと思いますけれど、パークレットという言葉をご存じでしょうか。例えばタブレットとか、あるいはリーフレット、パンフレットとかありますけれども、「レット」っていうのは小型にするというか、小さくするというか、そういうイメージでありますので、ですのでパーク、公園を小さくしたようなそういう空間、公園を指すというパークと、小さいという意味の接尾語レットを組み合わせた言葉であります。これは路上駐車スペースの一部に、ベンチやテーブルなどを並べる空間のこと

を言います。元々先ほど写真に出ました、アメリカサンフランシスコ市が発祥と言われて、今ではヨーロッパをはじめ世界各国で一つ、まちの賑わいを作る仕掛けとして活用をされております。それをいち早く建設局、都市局の職員有志が、これ静岡でも取り入れて社会実験してみようというチャレンジを始めました。そこで今月25日から、静岡県内では初めての取り組みとして、「ハニカムスクエア」と命名したパークレットをオープンします。ハニカムっていうのはhoneycomb、ハチの巣のことですね。つまり六角形っていう意味ですね。この六角形という意味のハニカムとスクエア、広場というものを組み合わせ、ハニカムスクエアと命名をいたしました。略して、ハニスク。これを流行させたいんだよね、建設局・都市局はね。お力添えをお願いしたいと思いますが、ここで、実務のレベルですので、これをこれまで立案して頑張ってきた担当職員から、このパークレットについて、少し補足説明をしてもらいます。熱意を持ってプレゼンをお願いいたします。

◆道路計画課

道路計画課です。パークレットについて説明させていただきます。パークレットは呉服町通り・七間町通りの2カ所に設置します。いずれもこの3月、路上パーキングチケットが廃止となった空間を活用します。こちらがイメージです。正六角形を組み合わせた空間をコンセプトとしています。幅2.5メートル、奥行き約20メートルのゆとりの空間です。

六角形ですので、向かい合って座るでもなく、特定の集団が長居するわけでもない、それぞれが思い思いの使い方をしていただける空間となっています。こちらが呉服町の完成イメージです。材料にはオクシズ材をふんだんに使用し、まちの中にいながら、オクシズ材の良さや、緑と木の潤いを感じていただける空間となっています。

こちらが七間町通りのイメージです。ちょっと特別な空間とすることで、町の景観と調和し、居心地の良さを感じていただけると思います。先ほど市長のお話にもありましたが、地元の方々との空間を作り上げる上で、このパークレットをハニカムスクエアと命名しました。「ハニスク呉服町」、「ハニスク七間町」として、市民の皆様に親しんでいただければと思います。

ハニスクの利用促進企画として、第1弾「ハニスククーポン」を発行します。また9月26日・27日の土曜日・日曜日には、呉服町名店街が協賛企画として、歩行者天国時に車道にテーブルと椅子を並べるオープンテラスを展開します。ハニスクをきっかけとした賑わい作りをどんどん仕掛けていきますので、皆様ご期待ください。

最後にオープニングセレモニーのご案内です。9月25日、金曜日、15時15分からオープニングセレモニーを開催します。場所はハニスク呉服町です。お手元の資料には15時からとなっておりますが、15時から交通規制・車両通行止めを行い、取材しやすい環境を整えます。ぜひ取材していただき、新しい道路空間の使い方を市民の皆様に発信していただければと思います。

さらにこの日の夜、18時からハニスク七間町において、市長と地元名店街の方々がちよっ

とお酒を交わしながら、ゆっくりしたリラックスした時間を過ごす企画を予定しております。こちらにも利用者の生の声をレポートできることや、夜と昼のちょっと違った雰囲気を感じとっていただけたらと思います。こちらにもぜひ取材をお願いいたします。

◆市長

はい、どうもありがとうございました。国の規制緩和を活用したアフターコロナの時代、こんなチャレンジをしております。皆さん9月25日、二部構成であります。昼は昼の顔、そして、その日はプレミアムフライデーですので、夜はちょっとおしゃれな大人の雰囲気、情報発信をしていきたいと思っておりますので、ぜひハニスクの取材をよろしくをお願いいたします。私からは以上です。

◆司会

はい。それではただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いをいたします。ご質問の際は社名とお名前をおっしゃってから、お願いをいたします。

はい、読売新聞さんお願いします。

◆読売新聞

読売新聞です。よろしくお願いします。2点質問があります。1点がパークレットの取り組みについてなんですけど、国内で、他県などでこういった例があるのかなど、参考にされる例などあれば教えてください。

2点目がこのハニスク、ハニカムスクエアというのは静岡市が作った造語ということなんでしょうか。お願いいたします。

◆市長

はい、2点質問いたしました。まず総論として私からお答えをいたしますけれども、先ほど私、説明しましたとおり、一つの成熟した都市の条件として歩いて楽しいまちづくり、ウォークアブルシティというのは一つの潮流になっています。静岡市はコンパクトシティですので、それをやりやすい諸般の条件が整っておりますので、ヨーロッパの事例も研究しながら、わりと先進的に今回やっていますけれども、全国的には神戸市などにも、こういう取り組みがあると伺っております。そして、二つ目は、私たちオリジナルと思っていますけれども、何か質問、補足があれば説明をしてください。

ハニカム広場というのはハチの巣広場だよ。ハニカムスクエアというのは、オリジナルの命名なのかと。

◆道路計画課

はい、オリジナルの造語になっております。

◆読売新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他はいかがでしょう。はい、SBSさんお願いします。

◆SBS

SBSです。先ほど密にならない屋外空間とあったんですけども、その他にコロナ対策は施さないのかという点と、あとは期間が9月25日から3月31日の予定とあるんですけども、これは秋・冬・春とシーズンを通して行うとなると、外に人が集まるのかという視点では、どういうふうに思っているのか、ちょっとお聞きしてみたい。

◆市長

はい、2点質問を頂きました。一つ目は社会経済活動という点でのコロナ対策ですか。それとも感染拡大。

◆SBS

感染拡大も含め、はい。

◆市長

それは本当にこの両立のかじ取りをしているということで、いろいろな対策はしているのはご存じのとおりです。前回の記者会見で申し上げたとおりですね。で、その中で保健福祉長寿局、感染拡大防止という点ではね。で、社会経済活動の再開という意味では、経済局中心にアクセルとブレーキをかけながら、東京の状況とは違いますので、その両立をしていくと。つまりいのちと暮らしを守っていくことで、静岡市ではやってきたわけです。その中で今回僕たちもやりたいとあって、建設局・都市局がコロナ対策、何かできないかというふうに立案してくれたのが、市長としては、私はとてもうれしく、心強く思っています。ですので、今度は建設局・都市局の援軍をもらって、まちに人を誘うような仕掛けを作っていくと、社会経済活動の再開に少し後押しができればなというふうな願いを、私は持っております。

そして二つ目、これは、日本は気候がおだやかですので、秋とか春はなんとか、そういうような行動様式があるんじゃないかなというふうに思います。けれども、その根本として季節の変化ではなくて、日本人の行動様式が新しい生活に対応する、アフターコロナに対応するというので、意識改革が起こるかもしれないということに期待しています。実は皆さん経験していませんか。例えば、夫婦でとか、親子でとか、友達とかで、「じゃあ、

飲食店レストランに行こう」というときに、「自分たちだけになりたい」と、わりと日本人というのは、お店の奥の奥の席の方を取るんですね。そこだと他人の視線が遮断されて、そしてほっとする、自分たちの空間になると、そういう行動様式を取る。私、ヨーロッパで生活して、こういう日本人の感覚を持っていたんですけども、ヨーロッパで驚いたのは違うんですね。日本人はすごくいつも他人の視線を気にしています。だから自分たちの空間だとほっとするんです。だけど逆にヨーロッパのレストランというのは、逆にレストランでもこの屋外の、このオープンテラスの方が特等席なんです。ここから席が埋まってくんですね。店によっては、ここは一つテーブルチャージが高いところでさえあります。そして、そこに座って、自分の目線から街行く人々を見て楽しみながら食事をするわけです。日本人は歩いている人に食事をするとところをじろじろ見られたら、おちおち食事ができないと。だから奥のほう奥のほうに行くんですけども、他人の視線を気にするけれども、ヨーロッパの人は自分から街を見てやろうと。人を見てみよう。自分視点の中心なんですね。だから、そこがすごく発想、行動の発想が違うなど、私、驚いたんですけども、今回コロナの中で密を避けるという中では、このオープンテラスの方が感染はしないだろうというようなことの中で、こういう規制緩和、道路の占領を規制緩和してやってみたと。それが定着するかというのは、その意識が変わっていくのか、変わってないか、1回、野外のテラス席に座ってみたら、「けっこう楽しいじゃん」と。風を感じながら、外の空気の中で食事をする、お酒を飲むというのも楽しいじゃんという意識が生まれてきたら、これは定着するでしょうね。ですから、来年の3月までやっていますが、それが検証して、定着したということであるならば、延長ということもこれから考えていきたいなというふうに思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆市長

補足ありますか。大丈夫ですか。

◆道路計画課

大丈夫です。

◆司会

その他いかがでしょうか。はい、NHKさんお願いします。

◆NHK

はい、NHKです。すいません、先ほど画面に出していただいた写真のうち、草薙の写真

もう一度出していただいてもいいですか。

◆市長

はい。草薙の写真をお願いします。

◆NHK

左の写真ですね。私、行政が点字ブロックの上に人がたむろしている写真を、積極的な代表的イメージ像として出してくるのに、ちょっとショックを受けたんですけれども、なかなかオープンテラスも含めて、歩道ブロックを構造物で阻害しないことは、当然、配慮されているかとは思いますが、こういった利用される方の状態によって、あるいは、そういったおしゃべりをしたりすることによって、視覚障害者の行動が、歩行が阻害されるようなおそれに対して、どう考えていらっしゃるのか、そういう人に対する呼びかけ、かなり点字ブロックに迫った状態で席が設置されていますが、今回のパークレットも含めてどう配慮されているのか、お聞かせください。

◆市長

そうですね。ユニバーサルデザインで、こういう道路空間を構成していかなければいけないということには、十分、これから配慮をしていきたいと思えます。ただ、だからこそいろいろ規制でがんじ絡めだった、「これもやっちゃいけない、あれもやっちゃいけない」「ここは、ああ使っちゃいけない」というところの規制が、ものすごく国のレベルにおいても、地方都市の街の空間の自由度が低かったことにもなるんです。だから、ユニバーサルデザインにはもちろん配慮しながら、ぎりぎりのところで、こういうような楽しい空間を作るということです。

ですから、これも視覚障害者の方に迷惑にならないようにという、一つ、持っていき方でこういうような配置になったところは、ぎりぎりの道路空間、日本は元来、道路が狭いところもありますので、なかなかこれは工夫を要するところでもあります。

ただし、どんな方にとっても楽しいような空間ということは、常に、ここから配慮していきたいと思えます。

◆NHK

現時点でこの写真のようなことが常態化しているようだと、視覚障害者の方がぶつかって転倒するリスクなどもあると思いますが、そのあたり、どういう呼びかけが、今、行われていて、今後のパークレットも含めて、どういう対策をとっていかれるのかを、お聞かせいただけますでしょうか。

◆市長

ご指摘の点を留意してやっていきたいと思います。

◆NHK

特にご担当の方も、今時点で配慮していること、既に行われている、まちなかテラスも含めて、気にかけていることはないのでしょうか。

◆市長

今、私、申し上げましたとおり、チャレンジをする建設局や都市局の心意気ということ、とてもうれしく思っております。ですから、私は保健福祉長寿局の障がいの立場からも、これから局間連携して、誰にでも使いやすいストリートづくりということを試行していきますので、どうぞ、ご理解をお願いいたします。

◆NHK

担当の方から現状こういった呼びかけが、点字ブロックへの配慮として行われているのか、お伺いできますか。

◆市長

はい、じゃあ、都市局お願いします。

◆都市局次長

都市局でございます。草薙につきましては、写真、見ていただいて分かりますけども、テーブルとか椅子が出ているところは緑のシートが貼ってある区域です。基本的には物を置く、施設を整理するのは、緑の区域で、点字ブロックの上にはかかからない、これが必須条件になります。

当然、ユニバーサルというところで、警察の了解というのを、こういった形であったからこそ了解がもらえていると、今、写真の中でお店の方なのか、お客さんなのか、ちょっと分からないですけど、テーブルの横に立って、点字ブロックの上にはいっちゃう状況というのは、通常でも歩いている方もいっちゃうのと同じ状況だと思いますので、そういったユニバーサルの観点からも、おおむね了解をいただいた中で、こういった事業が組みまれているということでございます。

◆NHK

歩いているのと同じこと、これ、接客をするのも含めてですか。だから現状、特に「点字ブロック利用者に配慮してください」という呼びかけは行われていないという理解でよろしいのでしょうか。

◆都市局次長

それは警察との協議の中で、そういったものに配慮した運営というんですかね、経営をしていただくように、事業者の方には話ができています。

◆NHK

そこに配慮するのは店舗側の責任であって、行政側としては、特に呼びかけは行ってないという理解でよろしいですか。

◆都市局次長

細かい部分では、市の方もそういった条件の中で支援しているという形になりますので、実際に現場で当日やる方は事業者ということで店舗側の方になりますけども、そういった条件を守った中で運営をしていただくということになっております。

◆NHK

ひとまず結構です。ありがとうございます。

◆市長

はい。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしい。日経新聞さん、お願いします。

◆日本経済新聞

日経新聞です。よろしくお願いします。このハニカムスクエアと、これも含めた、この草薙カルテッド等々のまちなかの道路空間の使い方ということなんですが、これの経済効果という面で見ると、改めてどういうふうに見ていらっしゃるのかということをお願ひします。

◆市長

まだ、定量的にこの草薙の社会実験のデータということは、私のところには来ておりません。もし、定性的でも少し反応がどうだったか、店主の皆さんのご意見等々、伝えられることがあったら、お答えをいただきたいなと思います。

◆都市局次長

都市局でございます。草薙の実験につきましては、期間としては、9月13日までが、第一期間ということでスタートしたんですけれども、非常に評判が良くて、まちなかの安心、

あるいは安全、夜の雰囲気づくりというところで、非常に店主の方々、あるいは地域の方々から評判が良くて、期間を10月13日まで延長しようという形になっております。極めて状況とすれば、評判がよろしいかなというふうに考えております。

◆市長

はい。行政の究極の役割って、私は民間の方々に儲かってもらう、そういう社会環境を整備することだというふうに、常日頃、私自身、言っております。そういう、こういう道路空間を作ることによって、人々が賑わって、楽しんでいただくことはもとより、それが一つ、地域経済の活性化につながるということが目的、特に、コロナ禍の中においては、そういうアシストをするということが大事だと思っておりますので、また、これが売り上げにどのぐらい貢献したかという定量的なデータも、取っていききたいというふうに思っています。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問に移りたいと思います。時事通信さん、よろしくお願いします。

◆時事通信

すいません、時事通信です。よろしくお願いします。

昨日、自民党総裁選が行われまして、新総裁に菅義偉官房長官が選出されました。明日の国会で首班指名の見通しとなっておりますが、新総裁に対して期待されている点、どういったことかということと、総裁選挙では、全国一斉の党員投票が見送られて、派閥主導の選出だったのではないかという批判もありますが、どのように見られていらっしゃるか、お伺いいたします。

◆市長

まず期待することについては、地方創生の加速をしていただきたいというふうに思います。もとより、秋田県出身でありますし、総務大臣、当時はふるさと納税の立案者でありますので、地方を豊かにという問題意識はすごく強くもっていらっしゃる方だろうなというふうに思っています。また、全国市長会とのパイプも非常に強い方ですので、我々、首長にとっても、とても期待をしております。また、政令指定都市の市議会議員連盟、議連の会長さんでもあるんですよ。ご本人が市議会議員の出身ですのでね、そういう意味では現場のこともよく分かってくれているということで、私たちは、私も市議会議員の出身ですので期待はしたいな、地方創生・地方分権のさらなる加速に期待したいなというふうに思っております。

二つ目でありますけれども、同じ政党の中の総裁選挙ですので、ここからはワンチームに

なって、挙党態勢をとっていただきたいなど、菅総理のもとに一致団結して、そして、この国難を乗り切っていただきたいなどお願いいたします。以上です。

◆司会

よろしいでしょうか。ただ今の件で各社さんからご質問がありましたら、よろしくお願いたします。よろしいでしょうか。それではその他、各社さんからのご質問がありましたら、お願いをいたします。はい、中日新聞さん。お願いします。

◆中日新聞

中日新聞と言います。リニアのトンネル工事の件で、先週、川勝知事が会見で、トンネル建設に関しての残土について、残土処理の問題について触れたことはご存じでしょうか。静岡市のどこで処理するのかということで、「今のままでは処理方法を考えずに決めたことは、井川に希望だけ与え失望で終わりがねない」と発言されていたらっしゃいましたが、この件、残土の処理などについて、どのようにお考えでしょうか。

◆市長

これは私ども静岡市が所管をしておりますので、今、地域の皆さんやJR東海さんと調整しているところであります。

◆中日新聞

何か、その目途だったり、立っていることというのは、あるのでしょうか。

◆市長

もちろん有力な案はありますけれども、有効な利活用、それが持っていく先にも、有効に利用される、活用されるというWin-Winの関係になればいいなということを、私の念頭にありますので、これはきちっと責任を持って対処していかなければいけないなというふうに思っております。

◆中日新聞

残土処理を巡っては、岐阜県の御嵩町というところでは同じ残土処理を巡って、町として否定する考えというのを示しているんですけれども、静岡市としては…

◆市長

でも、トンネルを掘れば、残土は発生しますので、そこは前向きに、先ほど申し上げたとおり、Win-Winの関係になるような処理方法を考えていきたいなと思っています。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。じゃあ先にすいません。すいません、お願いします。

◆毎日新聞

毎日新聞です。清水の大鳥居のことについてなんですけれども、県が数年前に区画整理の際に、所有者不明のまま補償として建て替えた経緯があって、静岡市が、今回代執行で撤去したということだと思んですが、結果的に、かなり長い間、所有者不明だったのではないかという話で、とても不思議な状況だと思うんですけれど、市長ご自身は、なぜこんなことになったのかという点について、どう思われるかというのをお聞かせください。

◆市長

そうですね、おっしゃるとおりですね。なぜそういう形で中ぶらりんになっていたのか。これは検証して反省をしなければいけないことだろうというふうに思っています。

◆毎日新聞

あと、まちの方にお話を聞くと、江戸時代に村の人が建てたものではないかという話も…

◆市長

そうなんですか。

◆毎日新聞

はい、出ていて。

◆市長

江戸時代に…

◆毎日新聞

はい。という話もあったんですけれども、市長ご自身はこうじゃないかとか、そういう予想みたいなものってありますか。

◆市長

それは全く、いろんな話がありますけれども、これだという確定的なことは分かりませんが、いずれにしても我々、今回、代執行したのは、災害があったとき耐震に問題がある、地域の住民の方々が安心安全に、あそこで暮らせるという状況を作ることが、第一の課題でしたので、地元の連合自治会からの要望を受けて、調査に乗り出して、先ほどおっしゃったような事実も判明をしたので、「じゃあ、これは代執行するしかない

い」ということで、あそこの鳥居があれだけ大きなものが建っているということに対する、関係の近隣の皆さまの不安を除去する、安心安全を第一にこのような決定をいたしました。

◆毎日新聞

すいません、最後に、県が所有者不明のまま建て替えて、それについて市が今回、税金を使って代執行ということになったと思うので、その点はどうか。

◆市長

とにかく住民にとっては市であろうと県であろうと、行政がなんとかしてくれということなんです。ここはお互い相互補完関係がありますので、今回は市が代執行させてもらったということで、私自身は納得しています。

◆毎日新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。はい、SBSさんお願いします。

◆SBS

すいません、SBSです。市では先月20日に、教育実習の受け入れを1度、中止されていますけれども、改めて、受け入れる方針に変わったことについて、田辺市長はどのように思っているのか、ちょっと教えていただけますでしょうか。

◆市長

バランス感覚を持った大局的な判断をしなければいけなかったということです。教育委員会の中で決めたことなんですけれども、市長部局にもそのことが伝わってきて、「それは違うぞ」というふうに、私、申し上げました。子どもたちの安全安心を守るということで、少しでもリスクのあるものは排除をすることの方針だったと思いますけれど、一方で、静岡市出身で将来は教員になりたいという夢を持っている、そういう大学生、実習希望者の目線というものを考えなければいけないので、その二つが両立するような感染対策はしっかりした上でやるべきだという最終的な決定になったということでありませ

◆SBS

一応、文科省ですと、本年度に限り教育実習を大学の授業で賄える特例制度があった中

で、改めて期間短い中でまた実習を行うという経緯の中では、市長としてはいい判断だったのか、それとも、もうちょっと考えるべきだったのかとか、もしあったら教えていただいてもよろしいですか。

◆市長

どれがいい判断だったと？

◆SBS

中止、1回中止、コロナの影響も含めて、地方都市では受け入れないということを一度決めたことが、ほんとに良かったのかというのは、どうなんですか。

◆市長

市長としては良かったと思いません、思いません。だからこそ、私と市長部局のほうが、再考すべきだというボールを投げて、それで市長部局と教育委員会と、教育長と私と、最終的に両立するような方向でいこうというふうに決定をしたわけです。

◆SBS

最後に何か…

◆市長

今日、教育委員会、誰かいらっしゃっている？

◆司会

今日は来てないです。

◆市長

今日来てない、はい。

◆SBS

大丈夫、ありがとうございます。すいません。

◆市長

はい。

◆司会

その他いかがでしょうか。はい、NHKさんお願いします。

◆NHK

NHKです。すいません、前回の会見で聞くべきだったんですが、今、議会に提出されている予算案の中で、地震津波対策交付金等の返還金で1,700万円余り、県に対する返還金が生じていると。これは3月に発表があった危機管理課員が予算を使いきろうと、虚偽の報告書を業者に提出を求めて2,200万円でしたか、支払っていたという件で、県が交付金を返還するよということになったと思うんですけども、返還額が1,700万円で、これ補助事業としては10分の5なんですか。つまり、600万円か700万円は利息で、全くかかる必要のなかったお金だったと思いますけれども、これは交付金から支出されるのか、それとも何か別の弁済方法を考えていらっしゃるのか、また、そもそも当時の2,200万円、当時の業者から返還されたのか。その2点、お聞かせいただけますでしょうか。

◆市長

これは担当局長から実務的に発言をしていただきますけれども、総論として私が申し上げられることは、これは県にご迷惑をおかけしたなということでもあります。ですので、これが発覚をしたということですので、所定の行政手続きに則って、なるべく早いうちにこのような決定をしたということで、ご理解いただきたいと思います。局長、総務局長。

◆総務局長

総務局長の吉井と申します。この件については危機管理が諸事情わかっておりますが、私のほうで、ちょっと承知してないので…

◆市長

じゃあ副市長。

◆小長谷副市長

今、言ったように職員が仕事上きっちりしなかったということで、このような状態が生じたということで、誠に残念な事案であります。で、今の本来払うべきではないような返還金も生じているというようなことでもありますので、そのことについては法令等に照らして、関係者に求償をする必要があるとか等についても、法令に則って適正に対応していきたいというふうに考えております。以上です。

◆NHK

まず業者さんから2,200万円、全額返ってきたかどうか…

◆小長谷副市長

それは全額返還していただいているというふうに理解しています。

で、あと還付加算金ということで、プラスアルファで延滞的なものが生じていますよね。それについては、それに関係した職員に対して求償することができるか等について、今、検討しているという状況であります。

◆NHK

それを法務的に検討されている？そのまま市が公金から出すということにはならない？

◆小長谷副市長

一時的には公金で出しますけれども、原因者がそういうことで法令的に求償できるような内容であるかどうかについて、今は検討しているという状況です。

◆NHK

分かりました。また検討結果出ましたら、伺います。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。はい、お願いします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。静大と浜医大の統合再編問題についてお聞きします。先日第4回の協議会が開かれて、あらゆる案をワーキンググループで、また、ちょっと揉むというような話しになったと思うんですけども、改めて、再来年4月の入学者受け入れを大学側が目指している中で、市として、この、今、再編問題ですかね、どのようにお考えになっているのか。市長のお考えをお聞かせください。

◆市長

はい、分かりました。まず私から思いの一端をお話はいたしますけども、実務的にはこれも小長谷副市長が協議会の委員でありますので、少し補足していただきたいなというふうに思いますけれども、私自身、これは再編の動きというものは、流れに乗っていかねばいけないと思うけれども、伝統のある静岡大学がこれからも令和の時代に求心力がある、学生にとってワクワクするような静岡キャンパス、浜松キャンパスであるかというような観点から、いろいろ提案をしているところであります。副市長。

◆小長谷副市長

はい。今市長がおっしゃったように、これのあるべき姿について、いろいろ利害関係があ

る地元の皆さんも含めて、今、協議会をもって議論させていただいているということかなというふうに思っています。特に文部科学省等に照会いたしますと、「地元の理解を得て大学再編等を進めていただきたい」という、そういうような意向を伺っていますので、あくまでも、ゼロベースで今の案が一番いいのかどうか含めて、議論させていただいているという状況でありまして、1法人2大学制度という、浜松キャンパスと静岡キャンパスを分けるという案については、現時点で協議会の中で理解が得られてないという状況であります。従いまして、どういうものであれば理解が得られるのかどうかを含めて、ワーキンググループを作って、もう少し突っ込んだ議論をしていこうという状況になっているということでもあります。以上です。

◆テレビ静岡

文科省の通知にも地元の理解とあったと思うんですけども、市長が思う地元の理解ってというのは、どのようなことだと思います、地元の理解というのは。

◆市長

自治体ということですよ。ですから静岡市も市内に立地する有力大学として、静岡大学にはさまざまな提言なり、提案をするというゼロベースの環境を、今、作っているということでもあります。いろんな組み合わせがあらうかと思えますし、要は学生にとって静岡大学に行きたいという静岡キャンパス・浜松キャンパスであるべきということでもあります。全国の事例でも、この経営統合の流れっていろんなケースがありますので、今、研究をしております。国公立の枠を超えて、例えば山梨県は国立山梨大学と山梨県立大学が一つのコンソーシアムを作って、経営統合の方向でいくと、そんなこともありますし、いろんなことをこれからゼロベースのスタートラインの中で議論をして、サステナブルな、我々の一つのキーワードでありますけども、SDGs未来都市として、10年後も大学進学を目指す若者にとって、静岡大学が魅力的であり続けるには、サステナブルな大学であるにはどうするかということが大事ですので、拙速な議論は、今、目の前の、目の前の喫緊の課題を解決しようというB案ありきではないということは、強く申し上げたわけですが、それがゼロベースという意味であります。

◆テレビ静岡

ありがとうございます。

◆司会

その他よろしいでしょうか。それでは以上で、本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回の会見は10月7日の午前11時からとなりますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。